教育研究業績書

2025年10月20日

所属： 共通教育部　　資格： 講師　　氏名： 岸本　千秋

研究分野	研究内容のキーワード
日本語学,社会言語学	計量的研究,メディアのことば,言語意識
学位	最終学歴
博士（文学）,文学修士	大阪大学大学院文学研究科文化表現論専攻博士後期課程修了

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.文書法	2024年4月12日～現在	税務大学校大阪研修所において「文書法」として語彙、文法、待遇表現等の講義を行う。
2.SNSから日本語を見る	2018年4月～現在	SNSの言葉とコミュニケーションのあり方に焦点を当て、表現や表記などの用いられ方に一定の法則があることなど、SNSの言葉の面白さと特徴を知る。その上で、受講生自身がSNSで使用されている言葉（日本語・他言語）を客観的にとらえ、言葉の奥深さを知る。
3.日本語学入門	2018年4月～2020年3月	日本語を客観的にとらえるために、日本語学を学習・研究するのに必要な基礎的知識を習得し、日常生活に使う日本語に対する様々な観点を概観する。
4.日本語ライティング	2018年4月～2019年3月	文章読解・作成能力を、段階を踏んで養成する。同時に、文章作成に必須となる漢字運用力も習得させる。授業時間で漢字テストや熟語の意味の振り返りをすることで予習を促す。また、テーマに沿った文章作成を行い、その成果物を相互評価することにより受講生同士の学びあいを促す。
5.レポート作成の基礎	2016年4月～現在	レポート作成に必要な基礎的能力を学んだ上で、情報収集・分析・レポート作成の実践を行う。（阪南大学）
6.文章表現論	2014年4月～現在	文章を表現するために必要な能力を獲得することを目指す。自らテーマを考え論説文を作成する。（兵庫県立大学）
7.文章表現の基礎	2010年4月～2015年7月	日本語の基礎的能力を学び直し三段落ないし四段落の意見文を作成することを目指す。（阪南大学）
8.日本語（読解と表現）	2006年4月～2007年7月	日本語学の基礎的能力を学び意見文を作成することを目指す。（兵庫大学）
9.大学生のための文章表現（実践）	2005年4月～現在	意見を論理的・説得的に表現する能力を身に付けることを第一の目的とする。また、就職活動で必要とされる志望理由・自己PRの書き方についてマスターすることを第二の目的とする。
10.大学生のための文章表現（基礎）	2005年4月～現在	他者に伝わる文章に必要とされることは何かを教授する。文章作成に必要とされるさまざまな技術を確認しながら、それを実行できる力とテクニックを身につけることを目的とする。
11.学び発見ゼミ_ことばを数えてみる	2005年4月～現在	太宰治と村上春樹では文章の雰囲気が異なる。しかし、どこがどのように異なるのか、理由を説明することは難しい。「ことばを数える」ことで違いを論理的に説明できる方法を知ることを目的とする。
2 作成した教科書、教材		
1.どのようにして研究テーマを見つけたか一日本語学分野で卒論・修論を書く人のために一	2018年12月	大阪大学大学院文学研究科・文学部　現代日本語学教室　石井正彦教授還暦記念
2.関西弁事典	2018年3月	執筆項目「SNSと関西弁」。SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）に観察される関西弁の様態について解説した。真田信治監修。ひつじ書房。
3.医療コミュニケーション能力を鍛える　応用編	2006年1月	医療現場で必要とされる日本語の授業に使用するテキストの作成。現代日本語によるコミュニケーション・話しことばに関する内容を中心に執筆。
4.医療コミュニケーション能力を鍛える　文法編	2006年1月	医療現場で必要とされる日本語の授業に使用するテキストの作成。現代日本語の文法を中心に執筆。
5.医療コミュニケーション能力を鍛える　配慮表現編	2006年1月	医療現場で必要とされる日本語の授業に使用するテキ

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
		ストの作成。敬語を中心とした待遇表現・配慮表現について執筆。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.「日本語相談室」相談業務	2017年4月～2024年3月	武庫川女子大学言語文化研究所において日本語表現全般に関する相談を受け付ける業務全般を担当する。論文作成、レポート作成の際に、語彙的、文法的なことを中心に、日本語表現に関する相談への対応を行う。
2.同志社大学経済学部3年生向け講座　講師	2009年12月7日	講座名「レジュメの作成とプレゼンテーション」。ゼミ演習のためのレジュメ作成の方法、及び、学会発表やゼミ発表などのプレゼンテーション方法についての授業を行う。
3.同志社大学経済学部新入生向け基礎講座　講師	2009年4月27日	講座名「文章の書き方」。新入生を対象に文章作成のために必要な基礎的内容についての授業を行う。
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.中学校・高等学校教諭一種（国語）	1988年3月20日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.2023年度鳴松会豊中支部総会　講師	2023年6月25日	「ちょっと気になる敬語のおはなし」と題して、鳴松会豊中支部総会において講演を行った。
2.2021年度鳴松会文化祭協賛 教養講座　講師	2021年10月8日	「SNSにおける記号とことばの不思議な関係」と題してYouTubeによるオンデマンドで講演を行った。
4 その他		
1.ケーブルテレビベイコムでの放送	2024年2月29日～2024年3月6日	「ムコジョ生が集めたSNSの用語集」について取材を受け、研究結果ががが約１週間にわたり放送された。
2.定番から俗語まで「ムコジョ生が集めたSNSの用語集」若者の「今」写す416語、使用頻度で3段階に分類	2024年2月26日	神戸新聞に研究結果が掲載される。内容は次の通り。「今日のメーク羽ばたいてた！」「ま？　嬉（うれ）！」－。武庫川女子大（兵庫県西宮市池開町）の学生たちが交流サイト（ＳＮＳ）や仲間内で使っている言葉４１６語を収録した「ムコジョ生が集めたＳＮＳの用語集」を、学内の言語文化研究所がまとめた。新型コロナやＫ－ＰＯＰブームから生まれた新語や、人との微妙な距離をうかがわせる言い回しも多く、若者社会の「今」を写し取っている。
3.言葉の法則についてコメント。「フレンテ西宮」と「プレラにしのみや」	2023年9月30日	神戸新聞の取材に対応した。記事は次の通り。「間違い…ますよね？　地元の人でも迷ってしまう「フレンテ西宮」と「プレラにしのみや」」岸本さんによれば「外国語に対する憧れやコンプレックスから、外来語を使うと中身に対して期待感を抱かせる『宝石箱効果』がある」という。
4.LINEの会話どうやって終える？悩ましい「やめ時」、学生を調査	2021年11月15日	朝日新聞に研究結果が掲載される。内容は次の通り。LINE（ライン）での会話、どうやって終わりにしてますか――。武庫川女子大学（兵庫県西宮市）の岸本千秋助教が学生たちを調査し、その結果をまとめた。会話終了に向けた合図を送ったり、気づかいの口実を作ったり。みんな悩んでます。
5.コロナ禍で若者のＬＩＮＥに変化　相手や音声通話増え内容も	2020年11月9日	神戸新聞に研究結果が掲載される。内容は次の通り。大学生が無料通信アプリＬＩＮＥ（ライン）で連絡を取り合う相手の数が、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って増えたことが分かった。同研究所の岸本千秋助教は「不安や焦りを和らげるためにＬＩＮＥが一定の役割を果たしたようだ」と分析している。
6.「授業改善奨励制度」 学長表彰	2019年3月18日	武庫川女子大学 学長表彰（瀬口学長）
7.好きな関西弁１位は「なんでやねん」ワーストは「どつく」下品で怖いから…	2018年10月28日	神戸新聞に研究結果が掲載される。内容は次の通り。好きな関西弁１位は「なんでやねん」、嫌いな１位は

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		「どつく」-。武庫川女子大言語文化研究所（兵庫県西宮市池開町）が学生らを対象に関西弁に関するアンケートを実施したところ、そんな結果がまとまった。「なんでやねん」は東京発のテレビ番組などで面白おかしく使われることが多く、同研究所の岸本千秋研究員は「関西の人たちがそうした“フィルター”の影響も受けているようで興味深い」と指摘する。
8.MUKOJOラジオ出演	2017年9月20日	自身の言葉に関する研究内容と、言語文化研究所の報告集や活動内容について、MUKOJOラジオで話した。
9.さくらFMラジオ（西宮市コミュニティーラジオ）出演	2013年4月10日	ブログの記号とことばの関係について、西宮市のコミュニティーラジオ「さくらFM」で話す。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.日本語学・日本語教育	共	2013年6月	韓国外国語大学	「ニューメディアにおける表記の特徴-インターネットを通して個人が発する情報を例に-」（第5巻・談話編）を執筆。インターネット上に掲載される個人が発信する情報のうち、特に、ブログを対象に、その表記・表現の特徴を解説した。そのうえで、今後の展望について考察を加えた。全7巻。刊行委員長：韓美卿。pp.49-64.
2.メディアとことば2	共	2005年9月	ひつじ書房	「ネット日記における読み手を意識した表現－公開意識との関連から－」を執筆。インターネットに掲載された個人の日記（ネット日記、またはブログと称されるもの）について、表記の特徴を整理した。また、書き手の公開意識の有無によって表記・表現に違いがあるのかについて考察を加えた。編者：三宅和子・岡本能里子・佐藤彰。pp.204-231.
2 学位論文				
1.ウェブログの計量的文体研究	単	2018年02月	大阪大学大学院文学研究科	ブログの文体とらえるために、表記・表現、書き手の意識の各観点から、計量的な手法によって分析し考察を行ったものである。特にウェブ記号と文、ウェブ記号とことばとの関係に注目し、記号類の出現傾向を明らかにした。
2.ウェブ日記の文体と表現	単	2006年02月	大阪大学大学院文学研究科	ブログ（ウェブ日記）を言語資料とし、その文体と表現とを計量的に分析することでブログの本質に迫ることを目的としたものである。特に記号類については詳細に分析を行い、文体を表記の観点からもとらえることを試みた。
3 学術論文				
1.〈資料〉大学生が集めたSNSに関する言葉―他の集団語との比較を通して―	単	2024年3月	武庫川女子大学言語文化研究所年報第34号	大学生の関心興味があるSNSに関する言葉を、流行語や集団語との比較を通して、共通する語やSNSに特徴的な語、また、将来残りそうな語について取り上げ解説を加えた。pp.135-149
2.計量的アプローチによる大学学長のメッセージ分析 ―コロナ禍で何が語られたか―【査読付】	単	2024年3月	武庫川女子大学紀要 第71巻	コロナウイルスに関連する日本の大学学長24名のメッセージと対応について、計量的アプローチにより語彙の特徴と傾向を明らかにした。その結果、学長メッセージの主なトピックは、予防接種、オンライン授業、緊急事態宣言、課外活動の制限、学生の行動、学生の健康への配慮、卒業式・入学式、大学への協力・理解・支援の要請に関する各トピックであった。 pp.46-54
3.SNSに見る大学生の言語行動［３］--LINEチャットの終結部に関する考察--	単	2023年3月	武庫川女子大学言語文化研究所年報第33号	大学生のLINEチャット終結部における終結方法を、１対１の場面とグループでの場面ごとに明らかにした。その際の意識についても確認した。p.53-62
4.SNSの文体をとらえる試み―ブログとTwitterを例に―【査読付】	単	2022年12月	計量国語学会『計量国語学』33巻7号	ブログとTwitterを対象として文体の特徴を明らかにした．ブログについては，品詞比率，語種比率の結果から，きわめて話しことば的であることを確認した．Twitterについては，品詞比率からは書きことばに近いととらえられるが，これは，字数制限が影響しているとの解釈が妥当であるとした．ウェブ記号が文体にどのような影響を及ぼすかについて，ウェブ記号がある文とない文との品詞比率の差をロジット変換によって再表現した結果，ブログもTwitterも，ウェブ記号がある文は形容動詞・感動詞について，ウェブ記号がない文は，連体詞・接続詞についてより大きく評価された．pp.466-480

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
5.ニックネームの類型	単	2022年10月	武庫川女子大学言語文化研究所研究叢書１――武庫川学院創立８０周年記念論文集――	ニックネームがどのような語構成となっているのか、その類型について考察を行った。ニックネームの形について大きく４タイプに分け、その下位として12種類に分類を行い考察を加えた。補論として「ブログにおける注釈」を追加している。ネーミングという営みの場における基本的構造としての理論にメタ的な意識が働いている可能性があるという指摘に基づいて考察をした。pp.35-55
6.SNSに見る大学生の言語行動［2］ ―方言の意識的な使用と不使用―	単	2022年3月	武庫川女子大学言語文化研究所年報32号	大学生のLINE使用における方言の使用意識と（非）使用意識、またその使用実態について明らかにした。pp.3-12
7.SNSに見る大学生の言語行動［１］―依頼・感謝・謝罪・連絡・忠告・相談・告白―	単	2021年3月	武庫川女子大学言語文化研究所年報第31号	LINE使用の場面を複数設定し、大学生がLINE使用に戸惑いをもつか否かについての調査結果である。デジタルネイティブ世代の大学生が、依頼・感謝・謝罪・連絡・忠告・相談・告白など、日常的なやり取りをどうとらえているのかを明らかにした。pp.19-34
8.ニックネームの諸相	単	2020年3月	武庫川女子大学言語文化研究所年報第30号	大学生を対象としたアンケート調査により、ニックネームのパタン化を行ったほか、命名動機、命名方法等の分類を行った。
9.ニックネームの名付け２	単	2019年3月	武庫川女子大学言語文化研究所年報第29号	自己・他者のニックネームに関する大学生への意識調査である。アンケート調査を行い、ニックネームの名付けパタン、命名者などについてまとめた。pp.133-141
10.書きことばにおけるパラ言語情報と非言語情報 ―ウェブログを例として―【査読付】	単	2019年3月	大阪大学文学研究科『現代日本語研究』第11号	ブログの文章の特徴の一つであるウェブ記号が音声情報をも「表記」していることをとらえることを，パラ言語情報，非言語情報の機能や音声要素を参考にして，①声の大小・高低，音の強調，イントネーション，アクセント，②感情，気分，③模倣，物真似，④笑い，⑤泣き，涙，怒り，⑥その他の６項目から考える。pp.59-71
11.ニックネームの名付け	単	2018年3月	武庫川女子大学言語文化研究所年報第28号	自己・他者のニックネームに関する大学生への意識調査である。アンケート調査を行い、ニックネームの名付けパタン、命名者などについてまとめた。pp.67-74
12.ウェブログの計量的文体研究―文末表現とウェブ記号との関係を中心に―【査読付】	単	2018年2月	大阪大学大学院文学研究科日本語学講座『阪大日本語研究』30	ブログの文をウェブ記号の有無によって2種類に分け、終助詞・接続助詞とウェブ記号との共起関係を比較した。その結果、ウェブ記号と共起する終助詞・接続助詞に一定の傾向が確認されることを明らかにした。pp.17-39
13.ウェブログの計量的文体研究－文とウェブ記号の関係を中心に－【査読付】	単	2017年2月	大阪大学大学院文学研究科日本語学講座『阪大日本語研究』29	ブログの文をウェブ記号の有無によって2種類に分け文を構成する品詞を比較した。その結果、ウェブ記号の有無によって品詞に有意差が認められることを明らかにした。pp.71-99
14.恋愛の交渉ストラテジー	単	2014年3月	武庫川女子大学言語文化研究所年報第24号	恋愛コミックを対象に、他人を口説き、説得するストラテジーの流れとその類型とについて整理し、考察を加えた。pp.17-38
15.インターネットにおける新語とその周辺【査読付】	単	2009年11月	『日本語学』2009年11月臨時増刊号　明治書院	おもにインターネットの世界で使用されている新語にはどのようなものがあるかを示した。「一般的な新語」と「専門的な新語」との２種類に分け、それぞれに具体例を挙げながら考察した。pp.98-107
16.「食べ物」に関することばの時間的変化－アンケート調査の結果から―	単	2009年10月	武庫川女子大学言語文化研究所年報第19号	おもに関西で使用される食べ物に関することばを取り上げてアンケート調査をした結果である。年代別の調査結果からは、昔ながらの呼び方が消え、標準語に取って替わられるものが複数あることを明らかにした。pp.5-28
17.ウェブ日記に見られる話しことば的文体【査読付】	単	2008年4月	『日本語学』2008年４月臨時増刊号　明治書院	ウェブ日記を調査対象とし、品詞・語種・文長・字種の調査結果から、非常に話しことばに近い性質をもつものであることを確認した。また、樺島の法則にウェブ日記のデータを当てはめて、これからも話しことばに近い品詞比率であることを確認した。さらに、パラ言語情報の文字化、記号化がなされていることに言及した。pp.168-176
18.新聞社会面・地域面の語彙―2002年の新聞３紙を資料として―	単	2008年2月	武庫川女子大学言語文化研究所年報第18号	2002年発行の朝日・毎日・読売の３紙、それぞれの社会面と地域面のデータを対象に語彙調査を行った。地域面（阪神版）には、地域面ならではの方言などもみられることを示した。pp.21-36

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
19.ウェブ日記文体の計量的分析の試み２	単	2006年12月	武庫川女子大学言語文化研究所年報第17号	ウェブ日記の文体について、特に記号の有無を中心に考察を行った。文のみで表されたものと、記号を付加して表されたものとは、その文長に違いが認められた。このことから書き手が記号に意味を込めていると推測した。pp.5-12
20.ウェブ日記文体の計量的分析の試み	単	2005年12月	武庫川女子大学言語文化研究所年報第16号	ウェブ日記がどのような文体的特徴をもち、それがどのような量的構造となって反映されているのかを計量的に調査、分析した。中でも、特徴的である記号の使われ方をその機能によって分類し、その分類に基づいて使用傾向の分析を行った。つまり、文体を表現の視点からとらえることを試みた。pp.5-18
21.日本のWeb日記における表現の特徴【査読付】	単	2005年6月	『日本研究』第24号　韓國外国語大学日本研究所	インターネットの日記サイトにおける特徴的な表記・表現について、日本語のＷｅｂ日記の紹介を兼ねて分類、分析を行なった。pp.525-538
22.ネット日記作者の言語行動と言語意識－アンケート調査の結果から－	単	2003年12月	武庫川女子大学言語文化研究所年報第14号	インターネットに公開されている個人の日記（ネット日記）の書き手に対してメールによるアンケート調査を行った。その結果、公開することに積極的な書き手とそうではない書き手との２種類が存在することが明らかになった。pp.5-24
23.インターネットと日記【査読付】	単	2003年5月	『日本語学』2003年５月号　明治書院	インターネットの日記サイトにおける特徴的な表記・表現について分類、分析を行なった。また、なぜそのような表記・表現が使用されるのかについて考察を加えた。pp.38-48
24.洋服を表す外来語の一特徴	単	2002年12月	武庫川女子大言学語文化研究所年報第13号	女性向けファッション雑誌をデータとし、語彙調査を行った。特に外来語については、取り入れられた時代別によって分析を行い、明治、大正時代に取り入れられた語が基本的な語彙として使用されていることを明らかにした。pp.19-46
25.インターネットの日記サイトにおける表記の特徴	単	2001年7月	武庫川女子大学言語文化研究所年報第12号	インターネットに日記サイトにおける特徴的な表記について分類、分析した。特にカッコの中に文字を入れて表現しているいるカッコつき文字（（爆）など）についてパタン化した。pp.1-14
26.新聞社会面の語彙	単	2000年7月	武庫川女子大学言語文化研究所年報第11号	朝日、毎日、読売の新聞３紙の社会面について、1998年の１年間、毎日５文ずつを無作為抽出し、そのデータにもとづき語彙調査を行った。また、月別にどのような語が特徴的に現れるのかについて抽出、分析した。その結果、世間を騒がせた事件、事故に対応する語が抽出された。pp.27-42
27.新聞第一面の語彙－1997年の新聞3紙を資料としてー	共	1999年7月	武庫川女子大学言語文化研究所年報第10号	分担執筆：佐竹秀雄／岸本千秋　共同研究につき本人担当部分抽出不可能。朝日、毎日、読売の新聞３紙の第一面について、1997年の１年間、毎日５文ずつを無作為抽出し、そのデータにもとづき語彙調査を行った。頻度集計、語種調査の結果を示し、第一面における漢語使用率の高さを指摘した。pp.1-20
28.女子大生の敬語意識	単	1998年6月	武庫川女子大学言語文化研究所年報第9号	敬語の使用について、女子大生を対象としてアンケート調査による意識調査を行った。結果、レル敬語が好まれて使用されるなどの点が明らかになった。pp.33-44
29.女子大生の漢字意識	単	1997年5月	武庫川女子大学言語文化研究所年報第8号	漢字を使用することについて、女子大生を対象にしてアンケート調査による意識調査を行った。結果、漢字を好み漢字についての豊富な知識を持ちたいと考えている学生が多いことが明らかになった。pp.45-55
30.から見た女のことわざ	単	1995年3月	武庫川女子大学言語文化研究所年報第6号	女について言及していることわざを取り上げ、女子大生を対象としてアンケート調査による意識調査を行った。結果、女らしさに対して、昔ながらの意識をもつ学生も少なからず存在することが明らかになった。pp.45-55
31.悪文のパタンと出現メカニズム	共	1994年3月	武庫川女子大学言語文化研究所年報第5号	分担執筆：佐竹秀雄／岸本千秋　共同研究につき本人担当部分抽出不可能。広報紙の文章をデータとし、いわゆる悪文について分類・分析を行ない、その出現が書き手中心に述べられているためにおこるものであることを模式的に示した。pp. 1-18
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.略熟語の成立要件―非共通要素セットの関係性―	単	2025年8月10日	豊中日本語研究会	略熟語の成立要件を明らかにすることを目的とし、略熟語の非共通要素の対を対象にし、その語彙的意味関係について、対義×補完的関係が有意に多いことを中心に発表した。
2.略熟語の成立要件	単	2025年5月	豊中日本語研究会	略熟語の成立要件を明らかにすることを目的とし、データの現状と

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
		25日		して略熟語の語種、”核”となる語の位置、構成語の均衡、不均衡などについての分類を発表した。
3.ウェブログの計量的文体研究―文末表現とウェブ記号との関係―	単	2017年09月	阪大日本語学研究会	ブログの文末表現とウェブ記号との共起関係を計量的に調査し、特定の文末表現にはウェブ記号が有意に共起することを明らかにした。
4.ネット日記文体の計量的分析の試み	共	2005年9月	計量国語学会	ネット日記の文章を計量的な視点から調査・分析し，その文体的特徴を明らかにすることを試みた。その際，文体を単に文章表現だけでなく表記の観点をも含めてとらえて分析することを中心に述べた。共同発表者：佐竹秀雄。本人担当分：調査・分析・口頭発表。
5.ネット日記における公開意識と表現とのかかわり	単	2005年03月	第15回社会言語科学会	インターネットに公開されている個人の日記に見られる読み手を意識した表現と書き手の意識とをリンクさせて分析を行なった。また、終助詞と記号類との関係について考察を加えた。ポスター発表。
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.流行語、若者ことば、SNSのことば	単	2024年3月	言語文化研究所シンポジウム	流行語、若者ことば、SNSのことばについて、位相の点からとらえ、その上でそれぞれの共通点と相違点を確認した。（発表）
2.ムコジョ生が集めた　まさに今　使う！　気になる！　SNSの言葉	単	2023年7月	「LCりぼーと51」武庫川女子大学言語文化研究所	大学生自身が集めた「今、自分がよく使う・好きなSNSに関する言葉」425語の中から「よく使う」「とても気になる」言葉27語の説明を報告した。
3.どう変わる？関西の食べ物の言葉	単	2023年3月	「LCりぼーと50」武庫川女子大学言語文化研究所	おもに関西で使われる食べ物に関する言葉について、次の３つの視点から報告した。 ・関西方言から標準語に置き換わっている 言葉／置き換わりつつある言葉はあるか。 ・呼び名が複数ある場合、どの語形が残りそうか。 ・2008年から2021年の13年間で変化があるか。
4.消えるか、残るか、食べ物の言葉	単	2022年3月	言語文化研究所シンポジウム	「食」に関する、おもに関西地方で使用される言語形式について、アンケート調査を行った結果を報告した。視点は、標準語に置き換わることにより、関西の方言形式が消えそうになっているのか、あるいは、残っているのかを中心とした。（発表）
5.言語文化と言語教育―文章読本を考える―		2021年12月	大学間教育研究連携プロジェクト2021年度言語文化研究所フォーラム	コメンテイターとして登壇した。大学生が文章作成にどのような意識をもっているかをテキストマイニングの手法で解析し「読書感想文」への拒否感が大きいことを示した。（発表）
6.LINE 会話の終わり方・抜け方 ―大学生はどうやって LINE での会話を終わらせているか―	単	2021年10月	「LCりぼーと48」武庫川女子大学言語文化研究所	LINE会話のやめ時に気を遣っているのかどうか、また、LINE会話をやめる時にはどのような方法が多く用いられているのかについて、大学生の実態と意識を報告した。
7.オンライン授業の地平―2020年度の実践報告―	単	2021年4月	雷音学術出版	コロナ禍の中で遠隔授業をどのように実践したかその様態・実態を記録し、事後的に教育の全体像を検証することを目的としている。本学の担当授業について述べている。pp.44-44
8.SNSと関西方言 ―大学生の方言使用実態とその意識―	単	2021年3月	「LCりぼーと47」武庫川女子大学言語文化研究所	SNSにおけるコミュニケーションの中で、方言を「意識的に使うこと」、また「意識的に使わないこと」があるのか、ないのか、それはどのような場面なのか、そして、その理由は何なのかについて報告した。
9.コロナが変えたSNS ―大学生のLINE 使用は新型コロナウイルスでどう変わったか―	単	2020年10月	「LCりぼーと46」武庫川女子大学言語文化研究所	大学生のSNSがコロナによってどのように変化したのかを視点に、LINE使用の頻度、相手、 内容、その実態と意識を報告した。
10.ニックネームの付け方・付けられ方	単	2020年2月	言語文化研究所シンポジウム「ネーミングの言語文	「生活と社会との関わりにおいて」の部において登壇し、大学生のニックネームについて、パタン分類を行った途中結果を発表した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
			化」	
11.大学生の文章表現に対する意識	単	2019年12月	大学間教育研究連携プロジェクト2019年度言語文化研究所フォーラム	言語文化研究所と神戸大学との「大学間教育研究連携プロジェクト」（綴り方教育と言語文化）の一環として開催されたフォーラムにてコメンテイターとして登壇した。テーマ「言語教育と言語文化――ことばを綴るとは？」（発表）
12.大学生が LINE で連絡するとき、しないとき--「お礼」と「謝罪」の場合--	単	2019年7月	「LCりぽーと45」武庫川女子大学言語文化研究所	スマホネイティブの大学生にとって、LINEで伝えることと伝えないことの境目はどこにあるのかを明らかにするため、場面、相手による使い分けの実態を報告した。
13.文章表現とSNS	単	2018年12月	大学間教育研究連携プロジェクト2018年度言語文化研究所フォーラム	「大学間教育研究連携」を推進する活動の一環としてのプロジェクトである。「言語文化研究所フォーラム」において、「綴り方教育と言語文化」のテーマで発表。pp.63-70
14.l. ウェブログの計量的文体研究―文末表現とウェブ記号との関係―	単	2017年9月	阪大日本語学研究会	ブログの文末表現とウェブ記号との共起関係を計量的に調査し、特定の文末表現にはウェブ記号が有意に共起することを明らかにした。（発表）
15.人気ブログのタイトルに見られる工夫	単	2017年2月	武庫川女子大学特別学期公開講座ネーミングのことば学	ブログタイトルがいかに読まれることを目的として付けられているかを分析した。pp.32-32
16.ブログにおける文と記号との関係	単	2016年9月	ひと・ことばフォーラム	ブログの文章を文単位にし、それぞれの文をウェブ記号の付加の有無によって分類し、文を構成する品詞を比較した。その結果、ウェブ記号の有無によって品詞に有意差が認められることを明らかにした。（発表）
17.ブログにおける注釈とパラ言語	単	2015年12月	言語文化研究所シンポジウム「言語文化の諸相－注釈、翻訳、翻訳語－」	ブログの文章には記号類が多用されており、それらが注釈やパラ言語の役割を担っていることを解説した。pp.33-44
18.慣用表現にみられる意味・用法の変化	共	2015年3月	ひと・ことばフォーラム特別公開研究会	いわゆる誤用とされる慣用句の用法についてアンケート調査を行った結果の報告。共同発表者：佐竹秀雄。本人担当分：調査・分析・口頭発表。（発表）
19.交渉の言語術５：恋愛の場合―コミック『あすなろ白書』を資料として―	単	2013年5月	ひと・ことばフォーラム	恋愛コミックを対象に、他人を口説き、説得するストラテジーの流れとその類型とについて計量的な手法により、整理し、考察を加えた。（発表）
20.交渉の言語術４恋愛の場合―コミック『あすなろ白書』を資料として―	単	2013年3月	ひと・ことばフォーラム	恋愛コミックを対象に、他人を口説き、説得するストラテジーの流れとその類型とについて整理した。（発表）
21.交渉の言語術３恋愛の場合―コミック『あすなろ白書』を資料として―	単	2013年1月	ひと・ことばフォーラム	恋愛コミックを対象に、登場人物の会話から、他人を口説き、説得するストラテジーの流れとその類型とについて整理した。（発表）
22.M＆L研究の現状と将来―過去の研究をふまえて	単	2011年9月	メディアとことば研究会	メディアを扱った研究（特に「メディアとことば研究会」における口頭発表）を対象に、どういった研究分野・研究方法がなされているかについて分類・分析を行った。（発表）
23.ネット日記作者に対する意識調査報告	単	2003年10月	メディアとことば研究会	インターネットに公開されている個人の日記（ネット日記）の書き手に対してメールによるアンケート調査を行った結果報告。日記をはじめたきっかけ、日記を公開することに対する意識、顔文字などの使用に関する実態・意識などの調査項目について調査・分析を行った。（発表）
６．研究費の取得状況				
1.漢字・日本語教育研究助成制度	単	2024年4月～現在	公益財団法人 日本漢字能力検定協会	題目「推敲過程に注目した大学生の文章作成・レポート作成指導」 大学生を対象とした文章作成やレポート作成の指導過程において推敲過程に注目し、自分で行う推敲と他人からの添削の二段階におい

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
				てどういった点が推敲や添削を行う際に注目されるのかを明らかにすることを目的として行う。

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2019年12月～2020年12月	神戸新聞読者モニター
2.2012年1月～現在	ひと・ことばフォーラム事務局（関西事務局担当）
3.2011年4月～現在	文章読解・作成能力検定作問委員
4.2006年4月～2009年3月	日本語文章能力検定作問委員
5.1998年4月～2017年3月	アナウンス検定作問委員
6.1998年4月～2017年3月	日本話しことば検定作問委員